

【 政策名 】

【 施策名 】

【 事業名 】

【 事業費 】

1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略

- 1 社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保
- 2 若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり
- 3 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート
- 4 女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現
- 5 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり

(千円)

施策関連事業	2,139,675
出会い・結婚支援事業	34,644

政策評価（令和3年度）

政策評価調書

戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略				
幹事部局名	あきた未来創造部	評価者	企画振興部長	評価確定日

1 政策の目標（目指す姿）

- 若者の県内定着・回帰を進めるとともに、県外からの移住の更なる促進を図ることにより、本県人口の社会動態の流れを変え、社会減の縮小に向けた道筋をつくります。
- 県民一人ひとりの結婚や出産、子育ての希望をかなえ、「日本一子育てしやすい秋田」を実現し、人口の自然減の抑制を図るとともに、女性や若者が伸び伸びと活躍する環境づくりを促進します。
- 地域コミュニティの活性化、県・市町村間の連携、NPOや企業など多様な主体の協働による地域課題の解決に向けた取組などを促進し、県民が安心して暮らせる地域社会を実現します。

2 政策を取り巻く社会経済情勢

- 平成28年4月 ・「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が施行された。
- 平成29年6月 ・「未来投資戦略2017」が閣議決定され、第4次産業革命のイノベーションをあらゆる産業や生活に取り入れることで、さまざまな社会課題を解決する超スマート社会「Society5.0」が示された。
- 平成30年3月 ・国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口が発表された。
 - ・平成57年（2045年）には、本県の人口は60万人まで減少すると予想されており、特に65歳以上の人口は、平成57年には50%に達するとされている。また、平成57年の生産年齢人口（15～64歳）は約26万人で、平成27年と比較して30万人以上減少し、年少人口においても、平成57年には平成27年と比較して50%以上減少する（約11万人→約5万人）見通しである。
- 平成30年6月 ・「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」が成立し、平成31年4月より順次施行されている。
- 平成31年4月 ・外国人労働者の受け入れ拡大を目的とした新在留資格「特定技能」を盛り込んだ改正出入国管理法が施行された。
- 令和元年12月 ・「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定され、SDGsの理念に沿ったまちづくりや地域活性化の方向性が示された。
- 令和3年4月 ・令和2年度平均の有効求人倍率は、全国平均で1.10倍（△0.45）、秋田県は1.28倍（△0.17）となり、新型コロナウイルス感染症の影響により、国全体で求人数が減少した。
- 令和3年6月 ・国勢調査（令和2年10月1日現在）によると、本県の人口は960,113人（速報値）であり、前回調査から63,006人（6.2%）減少した。減少となるのは8回連続で、減少数及び減少率共に過去最大となり、また減少率は5回連続して全国最大となった。
 - ・また、秋田県年齢別人口流動調査（令和2年10月1日現在）によると、人口動態のうち自然動態は、平成5年以降、「自然減」の状態となっている。社会動態は、転出者が転入者を上回る「社会減」が続いているが、2年連続で改善しており、19年ぶりに「社会減」が3,000人を下回った。

3 政策を構成する施策の推進状況

3-1 施策評価の結果

施策	施策評価の結果			
	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)
施策1-1 社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保	C	B	E	—
施策1-2 若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり	C	C	C	—
施策1-3 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート	E	D	E	—
施策1-4 女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現	B	C	A	—
施策1-5 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり	A	A	B	—

※施策評価の結果：「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階で判定した結果

3-2 施策評価の概要

<p>【施策1-1】 社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「雇用創出数」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、令和2年度実績値は全体としては未判明であるが、雇用創出数目標値2,772人の約4分の1に当たる800人を目標としている「企業誘致等による雇用」については、企業誘致件数が元年度から大幅に減って5件となったことで、前年度から減少し、474人（対前年度比△413人）となることが判明している。そのほか、「起業・創業」で488人（対前年度比+38人）、「漁業分野」で11人（対前年度比△2人）、「観光産業」で298人（対前年度比△275人）の雇用創出が判明している。構成要素のうち、未判明の「成長産業（輸送機産業、医療福祉関連産業、情報関連産業等）」、「農業」、「林業」における雇用創出数が元年度と同程度で推移した場合には、全体として2年度目標値を下回ることが見込まれる。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「E」とする。
<p>【施策1-2】 若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「人口の社会減」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、令和2年10月～3年5月の社会増減数の実績（△2,944人）に、未判明である3年6月～9月の前年同期値（△22人）を加えた値は△2,966人、達成状況は84.1%で「c」相当であるほか、成果・業績指標①「県内大学生等の県内就職率」や成果・業績指標⑤「Aターン就職者数」も前年度を上回る実績となったものの、目標値を下回る結果となった。 ● 一方で、就活支援の強化や、移住・Aターン就職に関するきめ細かな相談対応、情報発信等を行った結果、成果・業績指標②「就職説明会等への大学生等の参加者数」や成果・業績指標④「移住者数」が目標を上回るなど、社会減の抑制につながる成果が現れてきている。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。
<p>【施策1-3】 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「婚姻件数」、②「出生数」のどちらも「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、速報値は2,686組、達成状況は72.0%で、前年実績値より悪化し、かつ現状値を下回っているため「e」相当である。令和2年1月にあきた結婚支援センターのマッチングシステムをリニューアルし、AI（人工知能）によるお見合い相手紹介機能を付加したことにより、交際開始率は旧システムより約2倍に増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、出会いイベントの開催が自粛されるなど、対面における出会いの機会が減少したため、成婚報告者数が減少しており、一般の婚姻においてもこうした傾向が見られ、婚姻件数が減少している。 ● 代表指標②に関しては、速報値は4,499人、達成率は76.3%と、前年実績より悪化し、かつ現状値を下回っているため「e」相当である。不妊治療への支援や周産期医療の充実のほか、乳幼児の保育料や副食費に対し助成するなど、子育ての環境づくりを進めてきたものの、出生数の減少には歯止めがかかっている。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「E」とする。
<p>【施策1-4】 女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画策定企業数」は「a」判定、②「次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画策定企業数」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。
<p>【施策1-5】 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「社会活動・地域活動に参加した人の割合」は「b」判定であり、定量的評価は「B」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

4 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
D	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策評価の結果は、「A」1施策、「B」1施策、「C」1施策、「E」2施策（施策の評価結果の平均点は1.80）であり、政策の定量的評価は「D」 ■ 施策の評価結果や推進状況などを総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

- 定量的評価：施策評価結果を点数化して平均点を算出し、「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。
 - ・ 施策評価結果の配点 「A」:4点、「B」:3点、「C」:2点、「D」:1点、「E」:0点
 - ・ 判定基準(平均点) 「A」:4点、「B」:3点以上4点未満、「C」:2点以上3点未満、「D」:1点以上2点未満、「E」:1点未満
- 定性的評価：施策の推進状況等から判定する。
- 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

5 県民意識調査の結果

質問文	満足度	評価年度(R3)の満足度(割合%)						3期プラン(4年間)の満足度(平均点)			
		十分 (5点)	おおむね 十分 (4点)	ふつう (3点)	やや 不十分 (2点)	不十分 (1点)	わからない ・ 無回答	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)
施策 1-1	若者にとって魅力的な働く場が確保されている。	0.4	2.0	26.3	27.2	33.5	10.5	1.88	1.97	1.98	
施策 1-2	高校生や大学生の県内就職が進んでいる。	0.6	5.1	32.4	25.7	19.5	16.7	2.21	2.22	2.30	
施策 1-3	安心して子育てができる社会になっている。	1.5	13.5	42.1	19.0	12.7	11.1	2.62	2.77	2.69	
施策 1-4	女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。	0.8	5.2	41.9	25.7	15.1	11.3	2.40	2.50	2.45	
施策 1-5	地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。	1.2	9.9	39.2	24.8	18.7	6.2	2.34	2.56	2.47	

調査結果の認識、取組に関する意見等

- 各施策に関する質問の5段階評価による満足度の平均点は「1.98」～「2.69」であり、いずれも「ふつう」の3より低かった。施策1-3の質問に対する満足度が最も高く（2.69（対前年度比△0.08））、施策1-1が最も低い（1.98（対前年度比+0.01））結果となり、前年度と比べ満足度が上がったのが2施策、下がったのが3施策となった。
回答では、施策1-1に関する質問については「不十分」が最も多かったが、それ以外の質問では「ふつう」が最も多かった。
- 「不十分」又は「やや不十分」を選んだ理由や県に求める取組として、満足度の平均点が最も低かった施策1-1に関する質問については、若者にとって魅力的な働く場が少ないなどの意見があった。
同様に2番目に低かった施策1-2に関する質問では、新規採用者の更なる定着を図るためには、企業の要望と学生の職業観に着目した取組が必要などの意見があった。

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

6 課題と今後の対応方針

施策	課題（戦略の目標達成に向けた課題など）	今後の対応方針（重点的・優先的に取り組むべきこと）
1-1	<p>○ 人口減少等により人手不足が顕在化しているが、自社の取組や魅力など、人材確保に向けた情報発信が不足している。</p> <p>● 県民意識調査の結果では、満足度の平均点が1.98と最も低く、若者にとって魅力的な働く場が少ないなどの意見があった。</p> <p>など</p>	<p>○ 自社製品の開発や働き方改革の推進など魅力ある取組を行っている企業を首都圏の若者視点で取材し、SNS等の活用などにより、企業の取組の発信に力を入れていく。</p> <p>● 成長が期待されるカーボンニュートラル、デジタル化などの分野の企業誘致や県内企業の参入を一層促進し、研究・開発職などの賃金水準の高い雇用の創出と共に、中小企業の生産性向上による賃金等の改善を目指す。</p> <p>など</p>
1-2	<p>○ 県内大学等では、理系学生の県内就職率が低い状況にあるが、県内企業に関する十分な情報を持たないまま、大学等で学んだことを生かせる就職先として県内企業を選択肢から除外し、県外就職を選択する学生が見られる。</p> <p>● 県民意識調査の結果では、満足度の平均点が2.30と2番目に低く、新規採用者の更なる定着を図るためには、企業の要望と学生の職業観に着目した取組が必要などの意見があった。</p> <p>など</p>	<p>○ 学生が低年次から県内企業を就職先としてしっかりと意識できるよう、大学等が学生に対して行う県内企業と連携した取組や情報発信の取組を引き続き支援する。</p> <p>● 県就活情報サイト「KocchAke!（こっちゃけ）」において初任給や福利厚生等の採用情報を提供するとともに、企業説明会等において、学生に求める能力や具体的な仕事内容を明示するほか、若手先輩社員との交流等を通じ、県内就職への理解と不安解消に努める。</p> <p>など</p>
1-3	<p>○ 子育てへの経済的支援として、奨学金返還制度、福祉医療費助成、保育料助成への要望が根強く見られる。</p> <p>など</p>	<p>○ 要望が多い経済的支援に関しては、保育料や副食費の助成のほか、福祉医療費助成、多子世帯向け奨学金貸与、子育て世帯向けの住宅支援等を引き続き着実に実施していく。</p> <p>など</p>
1-4	<p>○ 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画策定企業数は増えており、企業における女性活躍の取組は広がってきているものの、計画に掲げる取組内容が、従業員の意識啓発研修の実施など短期的に改善できるものにとどまっているケースが見受けられる。</p> <p>など</p>	<p>○ 「あきた女性活躍・両立支援センター」の企業訪問を通じて、若年女性に魅力ある職場環境づくりを推進するよう普及啓発等を実施するほか、アドバイザーの派遣による一般事業主行動計画の策定支援を通じて、女性管理職の登用など取組内容のレベルアップを図る。</p> <p>など</p>
1-5	<p>○ 人口減少や高齢化等により地域の担い手が不足している一方で、大都市圏に居住しながらも地方に関心を持ち、継続的に地方に関わり貢献したいという新たな人の流れが生まれてきているが、その流れを取り込めていない。</p> <p>など</p>	<p>○ 関係人口創出の事例等を市町村や関係団体と共有し、本県に合った効果的な受入体制の整備について検討するとともに、本県に関心を持つ県外居住者との交流等を進めながら、関係人口を生かした地域の維持・活性化を図る。</p> <p>など</p>

※課題と今後の対応方針の各施策の詳細については、施策評価調書を参照

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

7 政策評価委員会の意見

--

施策評価（令和3年度）

施策評価調査

戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略			
施策1-3 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート			
幹事部局名	あきた未来創造部	担当課名	次世代・女性活躍支援課
評価者	あきた未来創造部長	評価確定日	

1 施策のねらい（施策の目的）

若い世代の結婚・出産・子育てについての知識や現状などライフサイクルに対する関心を深め、意識の醸成を図るとともに、県民の結婚や出産、子育ての希望の実現に向け、全国トップレベルの子育て家庭への経済的支援の充実をはじめ、子育てしやすい環境づくりや結婚・妊娠・出産へのサポート強化など、切れ目のない支援に取り組み、人口の自然減の抑制を図ります。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

代表指標①								施策の方向性(1)(2)	
代表指標①	年度	現状値(H28)	H29	H30	R1(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考	
婚姻件数(組)	目標			3,590	3,660	3,730	3,800		
	実績	3,510	3,311	(3,052)	(3,161)	R3.9月判明予定			
	達成率			(85.0%)	(86.3%)				
出典:厚生労働省「人口動態統計」		指標の判定		(e)	(d)	n			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	47位	47位	47位	47位	R3.9月判明予定	婚姻率	
		東北	6位	6位	6位	6位			
	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年の実績値は未判明だが、「令和2年人口動態統計月報年計(概数)」による速報値は2,686組(達成率72.0%)となっており、現状値及び前年度実績値を下回る見込みである。 婚姻率(人口千人当たりの婚姻件数)についても、令和2年の速報値は2.8と減少し、前年度実績値(3.3)を下回り、21年連続で全国最下位となる見込みである。 婚姻件数の減少は、全国的な傾向でもあるライフスタイルの多様化等に伴う未婚化のほか、若年層の県外流出等が影響しているものと考えられる。また、新型コロナウイルス感染症の影響による婚姻の先送りなどが推測され、減少が加速している。 								

代表指標②								施策の方向性(1)(3)(4)(5)	
代表指標②	年度	現状値(H28)	H29	H30	R1(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考	
出生数(人)	目標			5,700	5,800	5,900	6,000		
	実績	5,666	5,396	(5,040)	(4,696)	R3.9月判明予定			
	達成率			(88.4%)	(81.0%)	-			
出典:厚生労働省「人口動態統計」		指標の判定		(e)	(e)	n			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	47位	47位	47位	47位	R3.9月判明予定	出生率	
		東北	6位	6位	6位	6位			
	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年の実績値は未判明。「令和2年人口動態統計月報年計(概数)」による速報値は4,499人(達成率76.3%)となっており、現状値及び前年度実績値を下回ることが見込まれる。 出生率(人口千人当たりの出生数)も減少傾向が続き、令和2年の速報値は4.7まで減少し、26年連続で全国最下位となる見込みである。 出生数の減少は、母世代となる15~49歳女性人口の減少のほか、有配偶率の低下や平均初婚年齢の上昇に伴う未婚化・晩婚化の進行が大きく影響していると考えられる。 								

※ 指標の判定基準

「a」: 達成率 \geq 100% 「b」: 100% $>$ 達成率 \geq 90% 「c」: 90% $>$ 達成率 \geq 80%

「d」: 80% $>$ 達成率 又は 現状値 $>$ 実績値(前年度より改善) 「e」: 現状値 $>$ 実績値(前年度より悪化)

「n」: 実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

施策の方向性(1)(3)(4)(5)

成果・業績指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
合計特殊出生率(一)	目標			1.47	1.50	1.52	1.54	
	実績	1.39	1.35	(1.33)	(1.33)	R3.9月判明予定		
出典:厚生労働省「人口動態統計」	達成率			(90.5%)	(88.7%)			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	38位	40位	42位	38位	R3.9月判明予定	
		東北	5位	5位	5位	5位		
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年の実績値は未判明だが、「令和2年人口動態統計月報年計(概数)」による速報値は1.32(達成率86.8%)となっており、全国平均値が0.02減少する中、0.01の減少にとどまっている。 合計特殊出生率の最低値は平成21年の1.29であり、その後ゆるやかな上昇傾向が続いたが、29年に減少に転じた。 								

施策の方向性(2)

成果・業績指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
あきた結婚支援センターへの成婚報告者数(人)	目標			215	220	225	230	
	実績	211	176	159	162	103		
出典:県次世代・女性活躍支援課調べ	達成率			74.0%	73.6%	45.8%		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—	—	
		東北	—	—	—	—	—	
<ul style="list-style-type: none"> あきた結婚支援センターへの成婚報告者数は、前年度から大幅に減少し、目標を達成することができなかった。 登録会員のマッチングによる成婚報告者数は、近年120人程度と横ばい傾向であったが、令和2年度は81人にまで減少した。 出会いの場の創出に取り組む企業・団体等が登録している「すこやかあきた出会い応援隊」の活動が年々縮小傾向にあることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響により出会いイベント開催の自粛が続いたため、あきた結婚支援センターにおいてオンラインによる婚活イベント等を開催し、出会いの機会確保に努めたものの、令和2年度における出会いイベントへの参加者数は前年度から694人減少し、出会いイベントによる成婚報告者数が減少している。 								

施策の方向性(4)

成果・業績指標③	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
放課後児童クラブの待機児童数(翌年度5月1日現在)(人)	目標			155	117	0	0	
	実績	177	79	(63)	(51)	R3.9月判明予定		
出典:県次世代・女性活躍支援課調べ	達成率			(159.4%)	(156.4%)	—		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—	—	—	
		東北	—	—	—	—	—	
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の実績値は未判明だが、より多くの児童を受け入れできるよう施設改修を行う事業者を支援した結果、元年度の実績値は51人となり、前年度に引き続き減少している。 近年、利用希望児童数が増加しており、これに対応するため放課後児童クラブ数も増加している(28年269、29年281、30年286、令和元年295、2年302(いずれも翌年度5月1日現在))。 								

							施策の方向性(4)	
成果・業績指標④	年度	現状値(H28)	H29	H30	R1(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考
保育所等の待機児童数(翌年度4月1日現在)(人)	目標			21	11	0	0	
	実績	41	37	65	22	10		
出典: 県幼保推進課調べ	達成率			-109.5%	0.0%	-		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-	
		東北	-	-	-	-	-	
<ul style="list-style-type: none"> 近年、就学前施設に入所する児童の割合が上昇し、入所児童の9割超が保育施設(保育所、認定こども園等)に集中しているが、必要な保育士を確保できない一部の地域で待機児童が発生している。ハローワークの協力により、保育所等に勤務経験のある離職者を対象としてアンケートを実施したところ、勤務した期間が9年以内との回答が約6割を占め、離職した理由として給与や業務量など就業環境の厳しさを挙げている。 								

2-3 施策の取組状況とその成果(施策の方向性ごとに記載)

(1) 結婚・出産・子育てに温かい社会づくり【次世代・女性活躍支援課、教育庁高校教育課】	指標	代表①②、成果①
<ul style="list-style-type: none"> 結婚や子育てを社会全体で支える気運を醸成するため、現役子育て世代や次の親世代等が、地域における様々な課題等について共有し、その解決に向けた行動に取り組むプロジェクトチームを、新たににかほ市に設置した(P T設置5市町<+1市>)。 高校生に対し、本県の少子化の現状や、結婚や家庭を持つことの意義等について学び考える機会を提供し、少子化に対する意識の醸成を図った(県内全ての高校(52校)へ少子化対策副読本を配布、主に家庭科で活用されている)。 市町村や県内企業等との協働により、あきた結婚応援パスポート事業を実施し、新婚夫婦や結婚を予定している男女を対象に、協賛店舗に提示することで値引きやポイント付与などの特典サービスを受けられるパスポート(カード)を交付した(パスポート発行枚数(令和元年11月からの累計):新婚夫婦用2,442枚<+1,657枚>、婚約カップル用33枚<+12枚>、協賛店舗数271店<+131店>)。 地域における元気な高齢者を対象に、子育て支援ボランティア育成講座を開催し、子育て支援施設でボランティアに従事できる人材を育成した(修了証交付者数15人)。 		
(2) 出会いと結婚への支援の充実・強化【次世代・女性活躍支援課】	指標	代表①、成果②
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年1月にあきた結婚支援センターのマッチングシステムをリニューアルし、会員のスマートフォン等から24時間利用可能としたほか、AI(人工知能)が相性の良いお見合い相手を紹介する機能を付加した結果、2年度の交際開始率が旧システムにおける交際開始率の約2倍(25.2%から45.4%)に増加した。また、市町村の公民館等を活用した出張センターを設置した(出張センター374回、16市町村)。 すこやかあきた出会い応援隊による出会いイベント等が年々減少していることに対応し、独身者の多様なニーズに応じた出会いイベント等に対する助成事業を令和2年度に創設したところ、10団体(うち「すこやかあきた出会い応援隊」へ6団体が新規登録)が活用し、出会いイベント等が25回行われた(参加者数369人、カップル成立数35組)。 <p><新型コロナウイルス感染症の影響></p> <ul style="list-style-type: none"> すこやかあきた出会い応援隊による出会いイベントの開催中止が相次いだことにより、対面による出会いの機会が減少し、あきた結婚支援センターへの成婚報告者数が減少した。 対面によらない出会いの機会を創出するため、令和2年10月からオンライン婚活事業を開始し、Zoomによる出会いイベントや婚活セミナーを40回開催した(参加者数358人、カップル成立数40組)。 		
(3) 安心して出産できる環境づくり【保健疾病課、医務薬事課】	指標	代表②、成果①
<ul style="list-style-type: none"> 特定不妊治療に要した治療費に対し助成した(夫婦258組<△2組>、444件<△11件>)。 こころとからだの相談室において、面接や電話による相談の他、メールによる相談に対応した(面接97件<+14件>、電話65件<+5件>、メール138件<+49件>)。 周産期母子医療センターのほか、分娩取扱施設が少ない地域における中核的な病院への運営支援を行った。また、周産期死亡調査等により原因究明を行ったほか、県内各地域の医療機関が参加して、症例検討等に関する遠隔テレビ会議を毎月開催した(12回<+1回>)。 <p><新型コロナウイルス感染症の影響></p> <ul style="list-style-type: none"> 例年開催していた、専門的な技術や知識の向上を図るための周産期医療従事者に対する研修を開催することができなかった。 		

(4) 社会全体で子育ての安心を支える仕組みづくり

【次世代・女性活躍支援課、教育庁幼保推進課】

指標	代表②、成果①③④
----	-----------

- ・全ての就学前教育・保育施設の保育士等を対象とした研修を開催した（参加者延べ1,724人<△1,575人>）。
- ・放課後児童クラブに従事している支援員等を対象に研修会を開催した（修了証交付数：認定資格研修169人<+17人>、資質向上研修202人<△179人>）。
- ・病児保育、延長保育、一時預かり等について、実施主体である市町村に対し助成を行うなど、多様な保育ニーズに対応するための取組への支援を行い、働きながら子育てできる環境づくりの充実を図った。
- ・地域の様々な子育て支援業務に従事してもらうため、子育て支援員研修を開催した（修了証交付数 基本研修：107人<+12人>、専門研修：地域子育て支援コース14人<前年度実施なし>、専門研修：地域保育コース91人<△7人>）。
- ・平成30年6月に秋田県商工会連合会と連携して設置した「あきた女性活躍・両立支援センター」において、女性活躍・両立支援推進員による企業訪問を通じた普及啓発を行ったほか、行動計画策定企業に対して指導・助言するアドバイザーを派遣した（企業訪問1,588社<+97社>、派遣件数133社<△1社>）。

<新型コロナウイルス感染症の影響>

- ・就学前教育・保育施設を対象とした研修の参加者数は、人数の制限、オンラインによる開催及び一部の研修の中止の影響により、前年度に比べて大幅に減少した。
- ・緊急事態宣言の影響により、例年6月～7月開催の放課後支援員等資質向上研修を冬季に延期したが、新型コロナウイルス感染症の拡大等が懸念されたことにより、参加者数は前年に比して大幅に減少した。

(5) 子育て世帯への経済的支援の充実

【次世代・女性活躍支援課、移住・定住促進課、国保・医療指導室、建築住宅課】

指標	代表②、成果①
----	---------

- ・保育所等に入所する乳幼児の保育料に対し助成したほか、幼児の副食費に対し助成した（保育料助成：延べ14,126人<△18,483人>、ひとり親家庭児童保育料助成：延べ527人<△1,037人>、副食費助成：延べ17,515人<+9,198人>）。
- ・平成30年4月2日以降に第3子以降が生まれた世帯の一時預かり等の利用料について、年15,000円を上限に助成した（延べ1,594人<+373人>）。
- ・子どもと暮らしやすい居住環境を確保するため、引き続き子育て世帯のリフォーム・増改築工事を支援した（子育て世帯（持ち家型）515件<+54件>、子育て世帯（空き家購入型）98件<+13件>、計613件<+67件>）。
- ・中学生以下の子2人以上を扶養する子育て世帯が県営住宅へ入居を希望する場合、入居抽選時の倍率優遇を行った（入居実績：4世帯<±0世帯>）。
- ・子育てに係る経済的負担の軽減を図るため、乳幼児及び小中学生の医療費自己負担分の1/2について助成した（77,526人<+1,777人>）。
- ・多子世帯における子どもの進学時の経済的不安を解消するため、所得制限のない、家計の負担のピークに合わせて借りられる奨学金の貸与を行った（令和2年度の募集枠100人に対し、応募124人<△51人>、貸与61人<△20人>）。

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
E	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「婚姻件数」、②「出生数」のどちらも「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。 ● 代表指標①に関しては、速報値は2,686組、達成状況は72.0%で、前年実績値より悪化し、かつ現状値を下回っているため「e」相当である。令和2年1月にあきた結婚支援センターのマッチングシステムをリニューアルし、AI（人工知能）によるお見合い相手紹介機能を付加したことにより、交際開始率は旧システムより約2倍に増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、出会いイベントの開催が自粛されるなど、対面における出会いの機会が減少したため、成婚報告者数が減少しており、一般の婚姻においてもこうした傾向が見られ、婚姻件数が減少している。 ● 代表指標②に関しては、速報値は4,499人、達成率は76.3%と、前年実績より悪化し、かつ現状値を下回っているため「e」相当である。不妊治療への支援や周産期医療の充実のほか、乳幼児の保育料や副食費に対し助成するなど、子育ての環境づくりを進めてきたものの、出生数の減少には歯止めがかかっていない。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「E」とする。

● 定量的評価：代表指標の達成状況から判定する。

「A」：代表指標が全て「a」、「B」：代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」：代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」：代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」：代表指標が全て「e」、「N」：代表指標に「n」を含む

● 定性的評価：成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■ 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文	安心して子育てができる社会になっている。						
		調査年度	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度	肯定的意見		13.8%	17.5%	15.0%		△2.5
	十分	(5点)	1.3%	2.0%	1.5%		△0.5
	おおむね十分	(4点)	12.5%	15.5%	13.5%		△2.0
	ふつう	(3点)	40.8%	43.2%	42.1%		△1.1
	否定的意見		35.1%	29.1%	31.7%		+2.6
	やや不十分	(2点)	20.6%	17.9%	19.0%		+1.1
	不十分	(1点)	14.5%	11.2%	12.7%		+1.5
	わからない・無回答		10.2%	10.2%	11.1%		+0.9
	平均点		2.62	2.77	2.69		△0.08
調査結果の認識、取組に関する意見等							
<p>○ 5段階評価の満足度の平均点は「2.69」で、「ふつう」の3より0.31低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。</p> <p>「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.0%、「ふつう」は42.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は31.7%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は57.1%であった。</p> <p>○ 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育施設や学童施設の整備が不十分であり、共働き世帯が安心して働ける環境になっていない。（男性／40歳代／秋田地域） ・ サポート環境は整っているかもしれないが、一人ひとりの給料があまり高くないため、収入面での安定、安心感がしっかり持てず、出産・子育てに対する不安は残ってしまうと思う。（女性／30歳代／山本地域） ・ 子どもを産む時にどのような自治体の支援があるのかよく分からない。各々の自治体の取組をどんな立場の女性であっても分かるように周知してほしい。（女性／20歳代／秋田地域） 							

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の 方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等 により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	○ 自分の将来の予測がつかず、結婚、出産、子育てに前向きになれない若者が多く見られる。	○ 子どもを産み育てながら秋田での生活を楽しみ活躍する姿をイメージできるよう、具体的な夫婦・家族の姿や経験及び県の支援制度の情報を、多様な媒体を活用しながら発信する。
(2)	○ 「すこやかあきた出会い応援隊」等における出会いイベントの活動が減少している中、独身従業員の結婚を応援したいという企業経営者の声に十分に対応できていない。 ○ コロナ禍であっても、出会いの機会を求める声があるが、十分に対応できていない。	○ 企業同士による交流を促進し、独身従業員の出会いの機会の創出を支援するなど、多様な出会い・交流の機会を創出する。 ○ ウィズコロナに対応し、オンラインによる出会いイベント等を積極的に開催することにより、独身者に出会いの機会を提供する。
(3)	○ 結婚・出産の年齢上昇に伴う不妊治療件数の増加により、専門的な相談ニーズが高まっている。 ○ 仕事と不妊治療の両立が難しく、退職や不妊治療を中断する場合がある。 ○ 晩婚化の影響から初産の平均年齢が高くなっており、高齢での妊娠・出産は流産や妊娠合併症のリスクが高まるとともに、不妊治療による出産分娩率も低下する。 ○ 本県の令和元年における周産期死亡率は5.5と、依然として全国平均を上回っている。	○ 引き続き共働き夫婦が相談しやすいよう、医師によるメール相談を実施するとともに、検索連動型広告を活用し、より多くの県民を相談につなげる。 ○ 企業向けの不妊治療セミナーを開催し、治療の知識と理解を深め、仕事との両立の環境整備を支援する。 ○ 若い世代から、男女とも妊娠・出産には適齢期があることを知り、将来自らが希望するライフプランを描くことができるよう、普及啓発用リーフレットを作成し、配布する。 ○ 分娩取扱施設の整備に対する助成や周産期死亡に関する調査・研究を行うとともに、周産期医療関係者間の連携強化のための協議会等を引き続き開催する。
(4)	○ より多くの保育士等の配置を必要とする3歳未満児において、保育需要(入所希望)が増加しており、一部の地域で必要な保育士等が確保できずに待機児童が発生している。 ● 保育施設や学童施設の整備が不足しており、共働き世帯が安心して働ける環境になっていない。(県民意識調査より)	○ 引き続き保育士等の新規人材を確保するとともに、保育士等が働き続けられる職場環境の整備など、保育ニーズに応じた保育人材の確保に向けた取組を推進し、待機児童の解消を図る。 ● 核家族化や共働き世帯の増加により、放課後児童クラブの利用を希望する児童は増加しており、各市町村における子ども・子育て支援計画により、ニーズに応じた計画的な整備を働きかけていく。
(5)	○ 子育てへの経済的支援として、奨学金返還制度、福祉医療費助成、保育料助成への要望が根強く見られる。(県民意識調査で同様の意見あり) ● 子どもを産む時にどのような自治体の支援があるのかよく分からない。各々の自治体の取組をどんな立場の女性であっても分かるように周知してほしい。(県民意識調査より)	○ 要望が多い経済的支援に関しては、保育料や副食費の助成のほか、福祉医療費助成、多子世帯向け奨学金貸与、子育て世帯向けの住宅支援等を引き続き着実に実施していく。 ● 母子手帳を交付するタイミングでも支援策について案内はしているが、改めて各市町村に対し、ウェブサイトや子育て世代包括支援センター(ネウボラ)での案内に取り組むよう、働きかけていく。

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

6 政策評価委員会の意見

事業コード	01030202	政策コード	01	政策名	秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略										
事業名	出会い・結婚支援事業	政策コード	03	施策名	結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート										
部局名	あきた未来創造 課	指標コード	02	施策目標(指標)名	出会いと結婚への支援の充実・強化										
教室名	次世代・女性活躍支援課	班名	調整・結婚・若者支援班	担当者名	吉田 朋史										
課室名		担当者名	六澤 恵理子	事業年度	平成21年度 ~ 令和09年度										
課室名		担当者名		事業年度	平成21年度 ~ 令和09年度										
<p>3. 事業目的(どのような状態にしたいのか)</p> <p>結婚を希望する独身男女の出会いと結婚への支援を充実・強化し、若者が結婚・出産・子育てに希望をもてる社会づくりを進めることにより、婚姻数の増加を図る。</p>															
<p>4. 目的達成のための方法</p> <p>(重点施策推進方針との関係)</p> <p>重点事業 その他事業</p>															
<p>事業の実施主体</p> <p>県、(一社)あきた結婚支援センター</p> <p>事業の対象者・団体</p> <p>独身男女、結婚サポーター、企業・団体</p> <p>達成のための手段</p> <p>あきた結婚支援センターによる会員登録制のマッチング(お見合い)の実施、出会いイベントの開催支援、行政、企業、結婚支援団体等による地域全体を巻きこんだ結婚支援活動の促進、あきた結婚支援センターの周知広報の強化</p>															
<p>5. 昨年度の評価結果等</p> <p>継続 改善 見直しましたは休廃止</p> <p>評価の内容</p> <p>(一次評価結果) 令和元年度にリニューアルした新しいマッチングシステムにより、お見合い相手探しが活発に行われようになっており、新型コロナウイルス感染症の影響があるなかで、新システムでの成婚報告第1号カップルが誕生するなど、目に見える成果が現れ始めていることから、引き続き、結婚を希望する独身男女の出会いと結婚への支援の充実・強化を進めていく。</p> <p>評価に対する対応</p>															
<p>6. 事業の全体計画及び財源</p> <p>単位(千円)</p>															
順位	事業内訳	左	の	説	明										
01	あきた出会い・マッチング支援事業	会員登録制によるマッチング(お見合い)、出会いイベントの開催支援などにより、出会いや結婚を希望する独身男女に対する支援を行う。	01年度	23,330	02年度	23,330	03年度	23,330	04年度	23,330	05年度	23,330	06年度	23,330	全体(最終)計画
02	オンライン婚活事業	コロナ禍で対面によるイベントの開催が減少する中であっても、結婚を希望する独身者の出会いや結婚を支援するため、オンラインによる出会いイベント等を開催する。	01年度		02年度	11,314	03年度	5,000	04年度	5,000	05年度	5,000	06年度	5,000	
03	あきた結婚支援センターメンバーマッチングシステム(お見合い)事業	あきた結婚支援センター会員の利便性向上を通じて登録会員数及び成婚報告者数の増加を図るため、マッチングシステムをリニューアルする。	01年度	23,286	02年度		03年度		04年度		05年度		06年度		
財源内訳		左	の	説	明										
国庫補助金	地域少子化対策重点推進交付金、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金	46,616	34,644	28,330	28,330	28,330	28,330	28,330	28,330	28,330	28,330	28,330	28,330	28,330	
県債		11,643	11,314	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500		
その他	少子化対策基金	11,456	11,764												
一般財源		23,517	11,566	25,830	25,830	25,830	25,830	25,830	25,830	25,830	25,830	25,830	25,830		

7. 事業の効果把握するための手法及び効果の見込み									
指標名	成婚報告者数	指標の種類							
指標式	あきた結婚支援センターへの成婚報告者数(累積) (事業独自目標)	成果指標		業績指標		該当		非該当	
年度別の目標値(見込まれる効果)	低減目標	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	07年度	07年度	最終年度
指標a	1,500	1,700	1,900	0	0	0	0	0	0
指標b	1,488	1,591	0	0	0	0	0	0	0
b/a	99.2%	93.6%	0%						
東北及び全国の状況 岩手県など35道府県が結婚支援センターを設置									
データ等の出典 あきた結婚支援センター									
把握する時期 当該年度中 月 翌年度 04月 翌々年度 月									
指標名	結婚サポーター登録者数	指標の種類							
指標式	結婚サポーター登録者数	成果指標		業績指標		該当		非該当	
年度別の目標値(見込まれる効果)	低減目標	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	07年度	07年度	最終年度
指標a	270	280	290	0	0	0	0	0	0
指標b	270	270	0	0	0	0	0	0	0
b/a	100%	96.4%	0%						
東北及び全国の状況 岩手県など25府県でボランティアを活用している									
データ等の出典 あきた結婚支援センター									
把握する時期 当該年度中 月 翌年度 04月 翌々年度 月									
指標を設定することができない場合の効果の把握方法 指標を設定することが出来ない理由									
見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)									
1次評価									
課題に照らした妥当性									
理由	全道最下位にある婚姻率を引上げ、婚姻数の減少を食い止めるためにも、引き続き「あきた結婚支援センター」を核として結婚支援の取組を進め、結婚を希望する独身者の出会いや結婚の実現に向けて支援していく必要がある。								
必要性	国民ニーズに照らした妥当性 平成30年度に実施した少子化・子育て施策等に関する調査の結果では、学生・独身の就業率において「結婚したいと思う異性とめぐり会わない」と回答する方が多数おり、国民ニーズは高いことから、結婚を希望する独身者の出会いや結婚への支援を充実・強化していく必要がある。								
観	県関与の妥当性(民間、市町村、国との役割分担) 法令・条例上の義務 内部管理事務 県でなければ実施できないもの 民間・市町村で実施可能であるが県が関与する必要性が認められるもの								
点	【理由】 出会い・結婚支援を行う民間団体や市町村はあるものの、行政、企業、結婚支援団体等が連携し、県全体で取組を進めていくために、県が積極的に関与する必要がある。								
1次評価									
評価結果									
A									
B									
C									

1次評価			
有効性の観点	事業の効果(事業目標は達成されているのかどうか) 適用の可否	評価結果	事業の達成率
有効性の観点	a 達成率100%以上	可	達成率80%未満
	b 達成率80%以上100%未満	不可	達成率80%未満
	c 達成率80%未満	不可	達成率80%未満
【評価への適用不可又はcの場合の理由】			
効率性の観点	1 事業の経済性の妥当性(費用対効果の対前年度比) 適用の可否	可	不可
効率性の観点	a 1.1~	$\left[\frac{\text{令和02年度の効果}}{\text{令和01年度の効果}} \right] / \left[\frac{\text{令和02年度の決算額}}{\text{令和01年度の決算額}} \right] =$	(指標)
	b 0.9~1.1		
	c < 0.9		
【評価への適用不可又はcの場合の理由】			
コスト削減のための取組状況	2 コスト削減の効果が高い	b 取組んでいる	c 取組んでいない
	a 客観的で効果が高い	【コスト削減に向けた具体的な取組内容又は取組んでいない理由】	
	令和元年度に実施したあきた結婚支援センターマスターマッチングシステムのリニューアルにより、今後のセンター運営経費(人件費等)のコスト削減を図った。引き続き、業務の効率化を進めるとともに、センターの移転や職員の削減によりコスト削減を図っていく。		
総合評価	A 継続 B 改善して継続 C 見直し D 休廃止 E 終了	A I (人工知能)を搭載したマッチングシステムの導入を始めとするあきた結婚支援センターの取組を県民に周知した結果、会員登録者が増加したほか、マッチングが活発に行われるようになり、新システムによる交際開始率が、旧システムの約2倍に増加するなど成果が顕れている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面による出会いイベントの開催が減少する中において、オンラインによる出会いイベント等の開催について支援したところ、独身者が多数参加し、カップリング率も高かったことから、引き続き、結婚を希望する独身男女の出会いと結婚への支援の充実・強化を図っていく。	
2次評価			
必要性 - A - B - C 有効性 - A - B - C 効率性 - A - B - C			
総合評価			
(2次評価対象外)			
A 継続 B 改善して継続 C 見直し D 休廃止 E 終了			
評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)			
政策評価委員会意見			